

## ■サンタアニタトロフィー (SⅢ) アラカルト (過去全 43 回の分析)

※第 1 回 (昭和 55 年) から第 16 回 (平成 7 年) までは「関東盃競走」の名称で実施

※第 23 回 (平成 14 年) から第 24 回 (平成 15 年) までは 1,590m で実施

※第 32 回 (平成 23 年) は 1,800m で実施

※第 32 回 (平成 23 年) は国際招待競走・別定競走として実施

※第 1 回 (昭和 55 年) から第 40 回 (令和元年) までは 7 月下旬～8 月上旬に実施

※第 41 回 (令和 2 年) から第 43 回 (令和 4 年) までは 11 月上旬～中旬に実施

※記録は令和 5 年 7 月 19 日時点

### ■ 1 番人気馬と 2 番人気馬の 3 着内率はまったく同じ

単勝 1 番人気馬は 14 勝、2 着 7 回、3 着 1 回で、3 着内率が 51.2%、単勝 2 番人気馬は 6 勝、2 着 9 回、3 着 7 回で、3 着内率が 51.2%、単勝 3 番人気馬は 6 勝、2 着 3 回、3 着 7 回で、3 着内率が 37.2%となっている。単勝 1 番人気馬の 3 着内率がそれほど高くない点に注意したい。

### ■ 1～3 番人気馬のワンツースリーフィニッシュ決着は 1 回だけ

過去 43 回のうち 26 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 9 回あるが、単勝 3 番人気以内の馬が 1～3 着を占めた例は現在のところ第 41 回 (令和 2 年) のみである。

### ■ 優勝馬の大半は 4～5 歳馬

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 1 勝、4 歳が 14 勝、5 歳が 14 勝、6 歳が 8 勝、7 歳が 4 勝、8 歳が 1 勝、9 歳が 1 勝となっている。なお、3 歳時に優勝を果たした馬は、現在のところ第 3 回 (昭和 57 年) のレイクレーズのみである。

## ■“トップハンデ”の馬は11勝

過去43回のうち11回は、もっとも負担重量の重い馬が優勝を果たしている。一方、もっとも負担重量の軽い馬が優勝を果たした例は2回だけである。なお、優勝馬の負担重量は第6回（昭和60年）のテツノカチドキに課されていた59.5kgが最高、第2回（昭和56年）のダイロクホームメイと第3回（昭和57年）のレイクルイーズに課されていた50kgが最低だ。

## ■牝馬は2勝、外国産馬は優勝例なし

牝馬は第3回（昭和57年）のレイクルイーズ、第9回（昭和63年）のイーグルシャトーと、これまでに2頭が優勝を果たしている。なお、外国産馬は第25回（平成16年）でナイキゲルマンが、第28回（平成19年）でシーチャリオットが2着となったものの、まだ優勝例はない。

## ■騎手別の歴代最多勝記録は「7」

騎手別の勝利数を見ると、7勝の的場文男騎手が単独トップ。石崎隆之騎手、張田京騎手が4勝で2位タイとなっている。

## ■調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、4勝の大山末治調教師、月岡健二調教師がトップタイ。荒山勝徳調教師が3勝で単独3位となっている。

## ■外寄りの枠番がやや優勢

枠番別勝利数を見ると、6枠（9勝）が単独トップ。7枠と8枠（各6勝）が2位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、6番（6勝）が単独トップ。1番、8番、12番（各4勝）が2位タイである。なお、未勝利の枠番ならびに馬番はない。

<伊吹雅也>